

## 大統領の資格

先頃、キルギス共和国で大統領選挙が行われ、社会民主党党首のアタンバエフ首相が新しい大統領に選出されました。

キルギス共和国は中央アジアに位置しており、20年前のソビエト連邦崩壊と共に独立した若い国です。国民の間では、今でもロシア語が日常的に使用されており、キルギス語をまともに話すことができない人も相当いるとのことですから、旧ソビエトの影響が如何に大きかったかが分かります。

さて、キルギス共和国といわれて、直ぐに場所を特定できる人は、かなり社会情勢に明るい人ですが、そうでなくても、今から12年前、国際協力事業団から派遣されていた4人の日本人技師がイスラム武装勢力に拉致された事件のことは、記憶している方も多いと思います。そして、この事件は、中央アジア諸国の民主化への道のりが、民族問題はじめ宗教問題、貧困問題などが足かせとなって、大変厳しいものであることを浮き彫りにしたといえるでしょう。

現在、中央アジアでは、カザフスタンやウズベキスタンのように政権の長期化が顕著ですが、キルギス共和国では、大統領の独裁化を防ぐために新しい憲法を制定し、大統領の任期を一期に制限すると共に、議院内閣制を導入しました。

今回の大統領選挙の結果は、新しい仕組みに対する国民の支持をハッキリと示すものとなりました。これによって、キルギス共和国は、暴力的革命によらず、民主的な選挙によって大統領が交代し、新しい国づくりが始まることとなります。

さて、このようにして注目の浴びたキルギス大統領選挙ですが、キルギス選管では立候補予定者全員に国語の試験を課しており、試験の結果、25人中5人が不合格だったとの報道（10月31日付朝日新聞）があり、大変驚きました。

一つの国が独立を維持していくためには、何といたっても国としてのアイデン

ティティを確立することが重要だと思います。あるいは、よって立つ基盤とでもいった方が良くも知れませんが、それは即ち、その国の成り立ちを大切にすることであり、伝わってきた伝統や文化を守り伝えていくということに外なりません。中でも重要なのは、言葉だと思います。

最近は大火になりましたが、かつて漢字を廃止してローマ字にしようという動きがありました。もしもそのようなことになったら、国民の多くが、先人の残した文書を直接読むことができなくなってしまいます。それは、文化の断絶を意味し、決して許容できません。

キルギス語の試験は、キルギス語委員会が作成した「読む、書く、話す」について行われるそうですが、これは国語の基本ですね。

日本でも政治家の皆さんがしばしば舌禍事件を起こし、物議を醸し出しているのは残念なことです。政治家の皆さんには、「読む、書く、話す」という国語の基本のみならず、発する言葉に信頼という力が宿るように、ご精進を期待したいと思います。（塾頭 吉田 洋一）